

# 平成21年度長期研修生研修成果還元状況アンケート調査結果概要

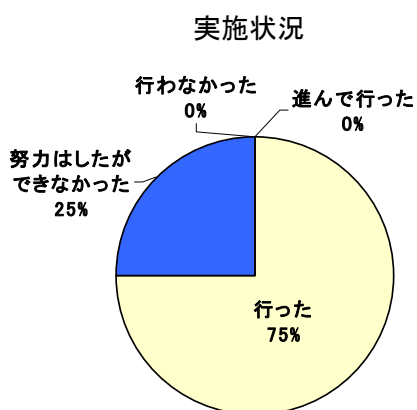
県教育センター

調査日：平成23年3月

回答数：8人

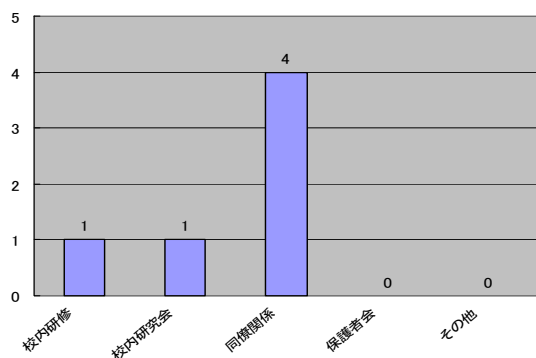
## 1、個人研究成果普及活動実施状況

### (1) 個人研究成果を学校現場等で「広める」取り組みや活動の実施状況

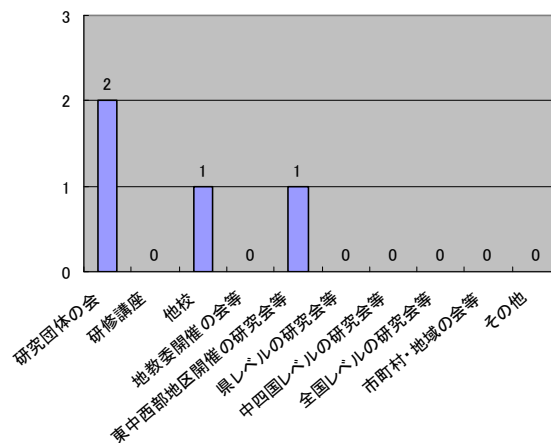


### (2) 具体的取組・活動場面（複数回答可）

場面と人数(校内) ※複数回答



場面と人数(校外) ※複数回答

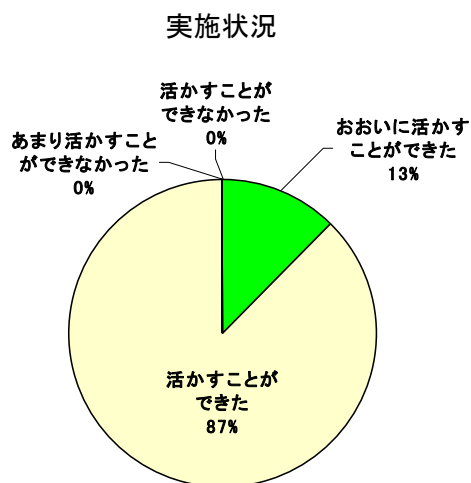


### (3) 取り組みや活動ができなかった理由

- ・研修の終わった次の年に他校へ異動となった。
- ・学級通信で、情報モラルに触れ、保護者啓発をしたが、継続できなかった。
- ・生徒の意識アンケートを実施したが、その活用ができなかった。

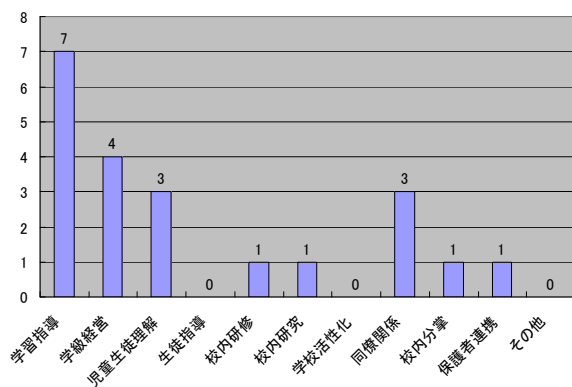
## 2、個人研究成果還元状況

### (1) 個人研究の内容に関する学校現場等での還元状況

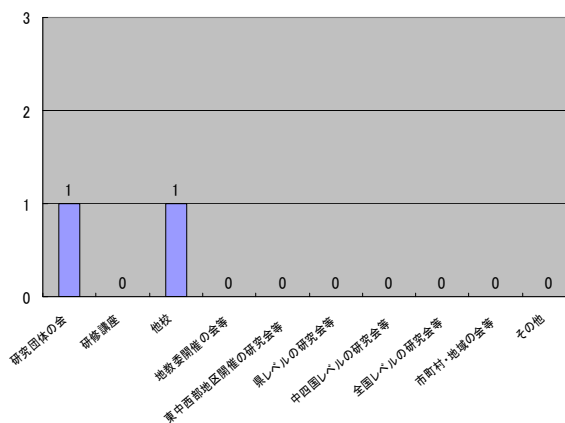


### (2) 具体的活動場面（複数回答可）

場面と人数(校内) ※複数回答

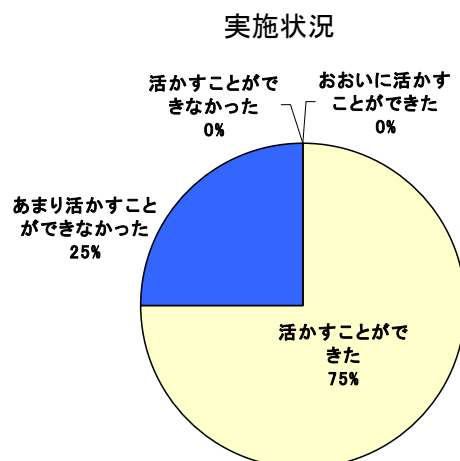


場面と人数(校外) ※複数回答



## 3、個人研究以外の研修成果還元状況

### (1) 個人研究以外の研修成果の学校現場での還元状況



## (2) 具体的内容 (記述)

- ・人間関係づくり等の手法を授業等で活かすことができた。
- ・自主研修で学んだ知識や、多数の授業参観をして得た経験を授業づくりに活かすことができた。
- ・自主研修で学んだ教師のあり方や生徒との関係づくりなどを活かして、日々実践をすることができた。
- ・研究主任という初めての分掌において、研究の進め方や講師の選択などに活かした。
- ・教育センターの講座について、同僚に紹介することができた。
- ・学級経営に関して、児童との関係づくりや児童同士の関係づくり、児童理解など、研究したことを活かすことができた。
- ・カウンセリングマインドの研究は、生徒の理解に役立った。
- ・コーチングについて 教育相談のとき、カウンセリングマインドをベースに児童の思いや悩みを聞き取るように心掛けることができた。
- ・センターの講座と鳥取大学の講座を受講したことが、生徒理解と学級経営の参考になった。